

選ばれる大学になる～情報活用によるグローバルな人材育成のあり方～

1. テーマの設定・背景

18 歳人口が減少し、大学全入時代となった昨今、数ある大学の中でより多くの志願者を集め、大学経営・運営しながら成長し続けていくことは、非常に難しくなっている。また、平成 20 年度文部科学白書（第 1 部第 2 章 第 1 節）にもあるように、現在、我が国のグローバル化の進行は著しく、社会から選ばれる大学になるためには、グローバルという観点は外すことができない。様々なものが社会から求められている今、専門性に富み、かつ国際適応能力を持った人材を輩出していくことが大学の役割として重要ではないだろうか。そこで、今回私たちは、日本のグローバル化のために何ができるかを考え、最終的に社会から選ばれる大学を目指すことをテーマとする。

まず、グローバルな人物に求められるスキルについて議論を交わした結果、「専門性」「コミュニケーション能力」「課題発見力」「課題解決力」「広い視野」「発想力」「協調性」等が挙げられ、次の 2 つに集約された。

①高い専門性・技術を有し、豊かな発想力と論理的思考力を持った人物

②広い視野に立って異文化を理解し、国際社会で活躍できるコミュニケーション能力を身につけた人物

このような人材が「社会に求められている人材」、つまり「グローバルな人材」と言えるのではないだろうか。

2. 課題の認識

では、実際に大学で①と②を兼ね備えたグローバルな人材を輩出できているのだろうか。各大学を見直してみると、理想と現実の差が大きく浮き彫りになってきた。一人で講義を受けられない、挨拶ができない、イベントがあっても参加しない、文章能力や語彙力が不足している等、様々な現状があげられた。これらの現状は大きく次の 4 つの特徴にまとめられる。

1. コミュニケーション不足

2. 自主性・積極性の欠如

3. マナー・ルールが守れない

4. 論理的思考力がない

このような課題を抱えた状況中で、学生ひとり一人が将来を設計してグローバルな人物となり、社会に出ていくことは、果たしてできるのだろうか。

3. 提案

このような現状を打破するためには、大学において「将来（キャリア）を設計できる場」を提供することが、グローバルな人材育成の鍵となると考えた。そこで、私たちが今回提案したのは、学生の学生による学生のための PDCA、「目標設定シート」である。学生生活を送っていく中で、学生自らが目標を設定し、評価し、次のアクションへつなげていく。つまり、学生自身に PDCA を実践させて自己マネジメントを促す。そして、学生だけではなく、教員・職員も将来設計の基となる「目標設定シート」を活用し、PDCA を大学全体に浸透させていくことによって、グローバルな人材育成の一步に繋がると考えた。

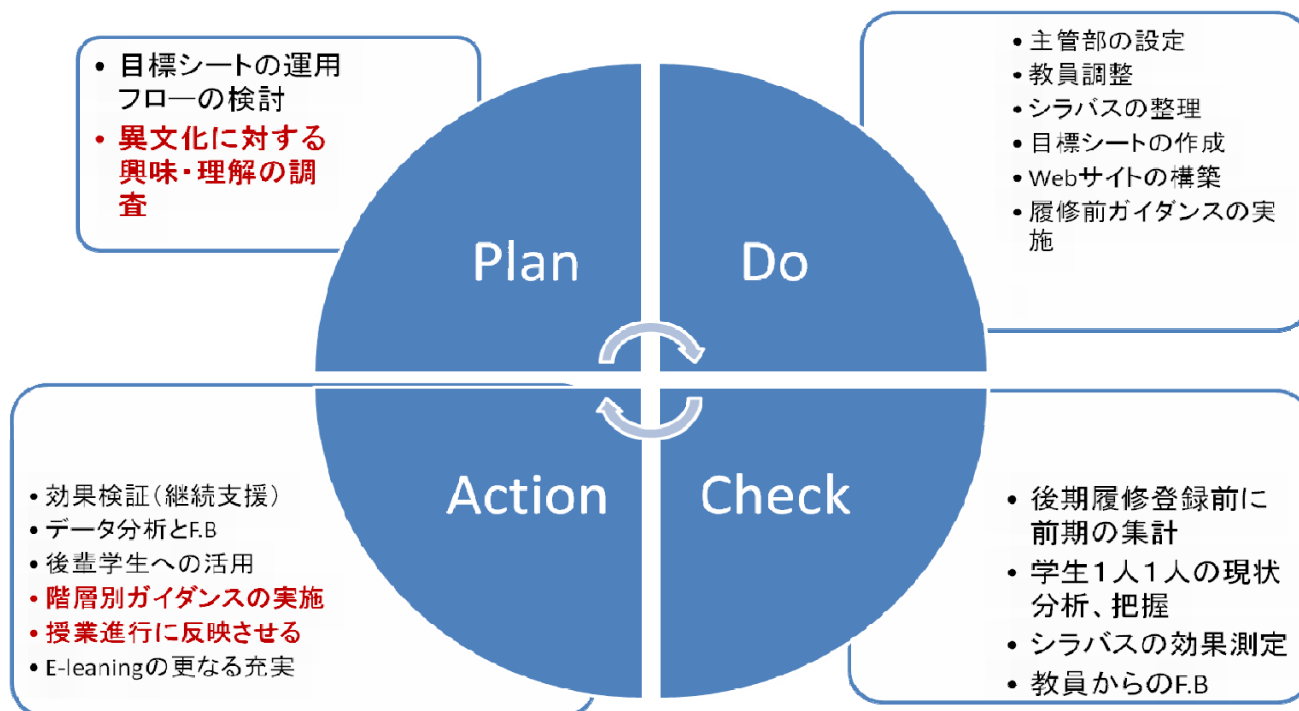
【目標設定シートの特徴】

- 学生生活・取り組みに関する情報をデータベース化して集約することができる。
- 学生ひとり一人がどんなことに興味・関心があるのか、またどのような目標を持って生活しているのか、教員・職員で情報共有をすることができる。
- 学生は目標設定シートの評価結果を相対的に閲覧でき、自分の位置がわかりやすい。また自分がどのような能力に優れているか、もしくはどのような能力が不足しているか、といったような部分がレーダーチャート

で表示され、一目でわかり、次なる目標を立てやすい。

- レコメンド機能を用いた入力フォームとし、学生の適正に合わせて先輩事例を表示することにより、次の目標や学びへの興味・関心を喚起することができる。
- 入力後のフィードバックを行い、学生が目標達成のために PDCA サイクルを実践できるようになる。

「目標設定シート」を活用した PDCA の浸透を実現するため、職員の PDCA は以下の通りである。



この PDCA サイクルの中で特徴的なポイントは、<Plan>で異文化に対する興味・理解の調査を実施し、「目標設定シート」の項目にグローバル的視点入れることである。また、<Action>の階層別ガイダンスや得られた情報を授業進行に反映させるといった内容も重要なポイントである。

4. 実現へのリスクの洗い出し

この「目標設定シート」を活用した PDCA を実施する上で、次のようなリスクが考えられる。

- ・教職員の負担増加
- ・教員の質によってばらつきが出たり、学生のモチベーション低下
- ・学生へのフォロー体制

これらを解決するためには、まず教員へ目標設定シートの導入によるガイダンスを実施することが必要不可欠である。また、職員へも目標管理のフィードバック方法を習得させたり、情報の使い方を学習したり、グローバル化人材に導くためのフォローアップ体制を整備することが大切である。故に、教員も職員も一丸となって全学的に学生をサポートしなければ、成功はありえない。教職員の協働がこの PDCA の要とも言える。

5. まとめ

目標を持って学生生活を過ごすことができるような機会を作り、PDCA サイクルを学生時代から定着させて将来設計を明確にする。このようなことが実践できるグローバル人材を育成し、多くの人材を輩出していくことで、社会から「選ばれる大学」となり、認知・評価が向上する。高校生や保護者だけでなく、各自治体や企業、研究機関、そして国際社会からも「選ばれる大学」となっていくのではないかと。「選ばれる大学」になった成果として、志願者の増加へと繋がり、大学のより良い成長へと発展していくだろう。